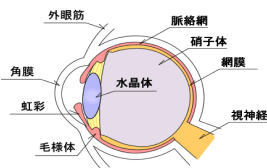


### 介護現場の医学豆知識

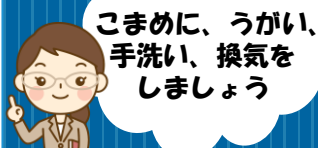
#### 【目の病気・症状】

- **白内障**  
水晶体が白く濁り、見えにくくなる病気
- **緑内障**  
視神経がいたんで、視野が欠けていく行く病気
- **網膜剥離**  
網膜がはがれ、視野の一部が欠ける病気
- **加齢黄斑変性**  
網膜の中心である黄斑部がいたみ（障害され）、視力が低下する病気
- **アレルギー性結膜炎**  
アレルギーにより、目の充血やかゆみが起こる病気
- **流行性結膜炎（はやり目）**  
非常に感染力の強いアデノウイルスが原因の角結膜炎
- **麦粒腫（ものもらい）**  
まぶたに縁に感染が起こり、赤く腫れて痛い病気
- **近視・遠視・乱視・老視**  
目に入る光の焦点がきちんと網膜上で結ばれていない状態
- **逆まつ毛**  
まつ毛が通常とは逆方向を向いてしまい、角膜に傷をつけてしまう病気



**認知症の人は、視力には問題はなくても「空間認知」の症状が出る場合があります。**  
症状・・・物と物の距離や位置関係の把握が難しくなる。（例：時計が読めない、道に迷う、物にぶつかる）

#### 発行人よりひとこと



### ワンポイント 介護技術

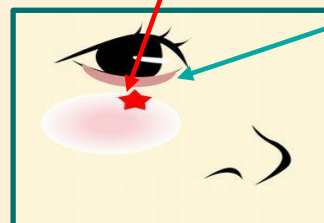
#### 【点眼介助】

#### 【準備】

- ① 手洗い
  - ・ 手指には、多くの雑菌が存在します。
  - ・ 石鹸と流水で、手をきれいに洗います。
- ② 物品
  - ・ 利用者の点眼薬を確認します。（名前、点眼薬名、点眼回数）
  - ・ 拭き取り用の綿花、又はティッシュを用意します。
- ③ 利用者に説明を行い、眼の状況を観察
  - ・ 目ヤニ等がある時は、拭き取る。
  - ・ 姿勢の確認（臥位、座位）

#### 【点眼】

- ① 拭き綿、又はティッシュを持った手で、下眼瞼（★印）を引いて結膜（肌色部分）に、1滴、点眼します。



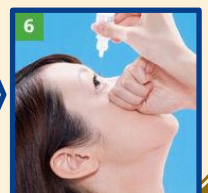
- ② 点眼容器の先端が、まつ毛や眼球結膜に触れないように注意します。
- ③ 点眼薬を浸透させるため、まぶたを閉じてもらい、拭き綿等で目頭を軽く押さえる。

#### 【2種類の点眼】

- ① 5分以上、間隔をあけて点眼します。

※薬剤が皮ふに付着していると皮ふ炎の原因となることがあるので、必ず拭き取りましょう。

【自分で点眼するとき】  
げんこつを顔に当てて、その上に点眼する手を乗せると、安定します。



# 点眼介助 Q & A



## Q 1. 一回の点眼量は？

- A. 一回の点眼量は、確実に点眼できれば、片眼1滴ずつで充分です。それ以上点眼しても、眼の外にあふれたり、鼻に排出されます。
- ・医療用点眼薬・・・1回1滴
  - ・一般用点眼薬剤・・・1回1～3滴（製品ごとに点眼量が異なる）

## Q 2. 2～3種類の目薬の点眼の留意点は？

- A. ①医師の指示に従って点眼します。  
②指示がない場合は、医師の問い合わせるか、5分以上の間隔を開けて点眼します。  
③点眼薬や眼軟膏等の種類により、点眼の順番や間隔が異なるため、気をつけましょう。

## Q 3. 点眼を忘れたときは？

- A. 気がついたときに直ぐ1回分を点眼します。  
ただし、次の点眼するタイミングが近い時は、忘れた分を点眼せず、次の点眼時に1回分を点眼します。  
点眼介助をしたら、記録をするようにしましょう。

## Q 4. 点眼剤は、どこに保管すればいいですか？

- A. 直射日光の当たらない涼しい場所に保管しましょう。添付文書で冷所または冷蔵保管等の指示がある場合は、凍結しない冷蔵庫で保管しましょう。

※目薬に異常（変色、異物、濁りや異臭、容器が膨らんでいる等）が発見された時は、使用を中止しましょう。  
もし、異常のある目薬を点眼した時には、直ちに水で目を洗い、医師に相談をしましょう。



**ご利用者さまの、  
視覚（視力・視野）の変化に  
気をつけてください!!**